



シチズングループの環境経営

環境社会ビジョンと環境方針

シチズングループはシチズン環境社会ビジョン(2025)に基づき、シチズングループ環境方針を改訂しました。グループ各社の心を合わせたいという想いから、「小さいは、エコになる。」という“スローガン”を設けました。

シチズングループはこれまで小型精密技術を軸にして生産性向上を進めてきました。これを“環境の目”で見ますと、「生産性向上=環境負荷削減=利益創出」となります。つまり、省スペース・省資源・省エネルギーという環境価値に置き

換えることができます。私たちは、日々のものづくりのなかですでに環境活動を十分に行っていることに気づきました。「小さいは、エコになる。」のスローガンのもとに、「小さくすること」までできているものづくりに“環境の目”をさらに加えて、「エコになる。」を見出して、シチズングループの環境価値としたいと考えています。

シチズン環境社会ビジョン(2025)

シチズンは「市民に愛され市民に貢献する」という理念に基づき、人々が心豊かに安心して暮らせる持続可能な市民社会に貢献します。シチズンは“一番近くで”地球と人にやさしい製品をお届けします。

2004年7月20日策定
2007年4月1日改訂

シチズングループ環境方針

スローガン
「小さいは、エコになる。」

- 1 ダウン・サイジングの実施**
生産革新/技術革新により環境負荷を削減し、利益創出およびCO₂削減を実現する
- 2 環境配慮型製品の新しい環境価値の創出**
製品または部品の新たな環境配慮内容の発掘
- 3 環境リスクの低減**
グローバル環境法規制への対応
REACH規則、米国規制、中国規制など
- 4 環境社会貢献活動による地域社会とのコミュニケーション強化**

2010年4月1日改訂

2010年度目標と実績		評価
2010年度目標	2010年度実績	評価
1. ダウン・サイジングの実施		
■生産革新/技術革新により環境負荷を削減し、利益創出およびCO ₂ 削減を実現する	東京：94のテーマで活動を実施 所沢：38のテーマで活動を実施	
■業務目標(方針管理)等から環境につながるテーマアップ 省資源、省エネルギー、省スペース、リサイクル性向上、化学物質の使用量削減、稼働率向上など	シチズン時計では、マイクロ化の活動成果を「みなし効果」の考えで算出	○
2. 環境配慮型製品の新しい環境価値の創出		
■製品または部品の新たな環境配慮内容の発掘	・具体的な取り組みに至らず ・一部で有害化学物質の代替や化学物質管理の維持を実施	△
■“エコドライブ”の新しい価値創出(時計)	・海外のエコマークの取得(台湾グリーンマーク取得：2010年11月)	
3. 環境リスクの低減		
■グローバル環境法規制への対応	改正情報を収集 REACH規則、米国規制、中国規制など	○
■省エネ法への対応 CO ₂ (電力+ガス)の削減(原則：年1%)		
東京：CO ₂ 排出量削減 1999年度比▲50%(11,800t-CO ₂)	1999年度比▲54%(10,803t-CO ₂)	○
所沢：CO ₂ 排出量削減 1999年度比▲12.6%(10,900t-CO ₂)	1999年度比▲17%(10,346t-CO ₂)	○
■廃棄物削減活動の推進		
東京：産業廃棄物の削減 維持管理	1999年度比▲64%(100t)	○
所沢：産業廃棄物の削減 維持管理	1999年度比▲50%(85t)	○
グループ：再資源化率 99%	99%	○
4. 環境社会貢献活動による地域社会とのコミュニケーション強化		
	CSR活動で実施	○

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス CSR 環境とシチズン 環境ビジョンと環境方針

環境マネジメント

環境経営推進体制

シチズングループは、効率的かつ確実に環境経営を推進するため、グループ横断の環境管理体制を構築しています。年2回、国内拠点の環境担当責任者が集まって「グループ環境管理委員会」を開催し、各社の活動状況を把握するとともに、年度の環境方針、共通課題を検討・決定しています。

国内の生産会社は、ISO 14001の認証を取得しており、各社で業態の特徴を出した環境管理活動を推進しています。

海外の生産会社は、環境配慮型製品を製造する上で重要となるグリーン調達や、化学物質管理に重点を置いた活動を展開しながら、順次ISO 14001の認証取得を進めています。また、非生産業務に携わる会社は、各社の特徴に合わせた環境負荷低減活動を行っています。

環境教育と啓発活動

環境経営を推進するためには、グループの従業員全員が環境活動の重要性を認識することが不可欠です。たとえばシチズン東京事業所では、教育体系に基づく新入社員教育などに、環境教育を組み込んでいます。また、各部門の環境実務担当者を対象にした「環境担当者教育」や「内部監査員養成教育」および「環境法令遵守評価教育」を年1回実施しています。毒劇物や危険物を扱う生産部門においては、緊急事態を想定した訓練も実施しています。

さらに、自主的な資格取得を奨励する独自の「ビジネスライセンス制度」を設け、公害防止管理者、エネルギー管理士などの公的資格の取得をバックアップしています。

事業活動と環境負荷

グループ全体のエネルギー・化学物質などの投入量、CO₂や廃棄物などの排出量を的確に把握し、計画的な環境負荷低減活動に活かしています。

INPUT	
総エネルギー使用量(GJ)	国内 2,358,062 海外 1,062,238
水使用量(千m ³)	国内 1,676 海外 1,998
水の循環的利用量(千m ³)	国内 384 海外 7
化学物質使用量(t)	国内 574 海外 2,547
容器包装材使用量(t)	国内 619 海外 1,209



OUTPUT	
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	国内 94,198 海外 38,577
BOD排出量(t)	国内 43 海外 19
NOx排出量(t)	国内 6 海外 6
COD排出量(t)	国内 7 海外 79
SOx排出量(t)	国内 5 海外 5
排出物量(t)	国内 6,967 海外 2,906
排水量(千m ³)	国内 1,343 海外 1,377
埋立量(t)	国内 22 海外 1,790

「INPUT」「OUTPUT」データには、「物流・販売」「使用」「資材調達」段階の環境負荷は含まれていません
対象期間：2010年4月1日～2011年3月31日 集計範囲：国内21社、海外10社

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス CSR 環境とシチズン 環境マネジメント/事業活動と環境負荷

事例紹介

環境家計簿制度導入による従業員の環境意識向上

シチズンファインテックミヨタでは、「従業員一人ひとりの感性が行動を起こす上での基本」との認識に立ち、「環境家計簿」制度を導入しています。2010年度は、433名(役員・従業員全体の61%)と参加者が大幅に増えました。家庭内での光熱費等を記録しながらCO₂の削減を図るなかで、最近では、太陽光発電等の代替エネルギーへの投資、LPガスから都市ガスへの変更等の温暖化係数の小さいエネルギーへの変換など“家族ぐるみ”での工夫を実践している従業員が増えてきています。

長野県が推進している“減CO₂アクションキャンペーン”や“信州エコポイント事業”に参加する従業員も増えてきました。この活動は、現状の「環境家計簿」をそのまま用いて地域社会の活動に参加できる取り組みです。今の社会において大切な“家族ぐるみ”、“地域ぐるみ”の活動を促進するためにも「環境家計簿」の輪を広げていきたいと思えます。



環境家計簿制度の表彰式

環境リスクマネジメント

シチズングループでは、環境法規制の遵守、製品含有化学物質の管理、廃棄物・リサイクルガバナンスの構築、土壌・地下水汚染対策などを、環境リスクマネジメントの対象としており、グループ環境管理委員会での情報交換を通じて、有効な施策をグループ各社に適用しています。